

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 キチジ

学名 *Sebastolobus macrochir*

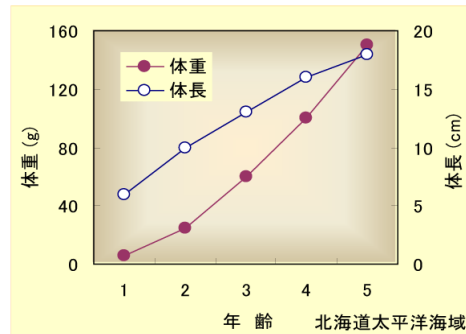
系群名 道東・道南

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 3歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(2～5月、道東)、産卵場は不明
索餌期・索餌場: 北海道太平洋側沖合の一帯に分布し、主な分布水深は300～900m
食性: クモヒトデ類、ヨコエビ類、オキアミ類、エビジャコ類、多毛類、魚類など
捕食者: マダラ、アブラガレイ、共食い

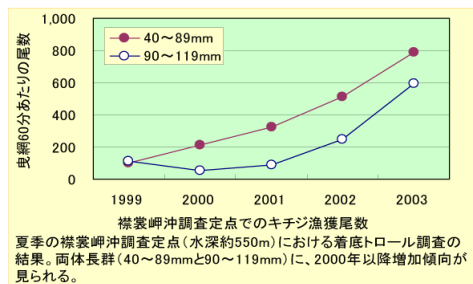
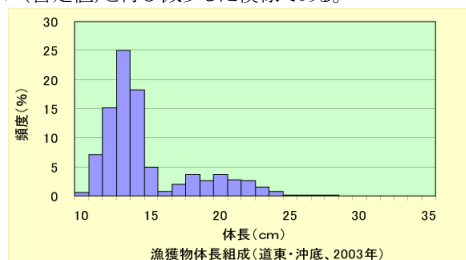
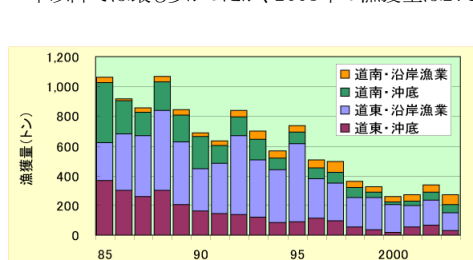


漁業の特徴

沖合びき網(沖底)の他、えび桁網や刺し網などの沿岸漁業により周年漁獲されている。近年の漁獲量は、沖底よりも沿岸漁業の方が多い。また、道南よりも道東で漁獲量が多い。

漁獲の動向

道東と道南における沖底と沿岸漁業の漁獲量は長期的には減少傾向にある。1985年まで1,000トンを超えていた漁獲量は、1997年に500トンを超えなくなり、1999年以降300トン前後にまで減少した。2002年の漁獲量は340トンと1999年以降では最も多かったが、2003年の漁獲量は274トン(暫定値)と再び減少した模様である。



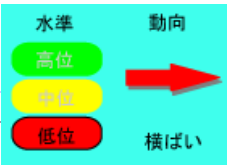
資源評価法

漁獲物の主体となるサイズの年齢と体長の関係が不明であり、年齢別漁獲尾数の算出が困難であることから、コホート解析はできない。また、漁船は必ずしもキチジ狙いの操業をしているわけではなく、漁獲努力量が把握できないことから、CPUEを算出できない。したがって、漁獲量の年変化と漁獲物の体長組成から資源を評価した。

資源状態

各海域の漁業種類別の漁獲量データがそろった1985年以降の過去19年間(1985～2003年)の漁獲量から、現在の資源水準は低位と判断された。また、1999年以降5年間の漁獲量の変化から、資源動向は横ばいと判断された。2003年の漁獲物の体長組成を見ると、道東海域では毎年小型魚が漁獲されていることから、豊度の高い年級群の出現を

確認できなかった。現存量調査の結果から、幼魚(体長4～12cm)の分布密度は、近年上昇傾向にあると考えられる。しかしながら、特に道東海域においては、体長10cmの2歳魚から漁獲利用されており、大型個体の資源の増加に結びついていない、すなわち成長乱獲である可能性が高い。



管理方策

漁獲量の変化と漁獲物の体長組成から資源状態を判断し、漁獲量に適切な係数を掛けた値をABCとする。資源回復を目標とした場合、現状の漁獲圧を下げる必要がある。資源回復のための係数を0.8とした。資源の減少傾向が止まった可能性はあるものの、現在の資源が極めて低い水準であることに変わりはない。未成年が成熟するまで獲り残し、再生産に振り向けることが、資源状態の改善に有効に働くと期待される。したがって今後とり得る方策としては、漁獲努力量削減はもちろんであるが、加えて若齢魚の保護対策として、漁獲物の体長制限や、生育場の禁漁措置が必要と考えられる。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	235トン	0.8Cave5-yr	-	-
ABCtarget	188トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 各海域において、漁獲量は長期的には減少傾向にある
- 現在の資源状態は極めて低い水準にある
- 2003年の漁獲物には、豊度の高い年級群の出現を確認できない
- 近年、幼魚の分布密度は上昇傾向にある

管理方策のまとめ

- 漁獲努力量の削減が必要
- 未成年が成熟するまで獲り残し、再生産に振り向けることが、資源状態の改善に有効に働くと期待される

資源評価は毎年更新されます。